

第三者評価の受審実績（過去5年間）		平成 21、22、23、24、25 年度	
取材の対象年度	平成 24 年度	評価手法	標準の第三者評価

【取材メモ】



取材の視点

- ・第三者評価受審の目的、経緯
- ・事業評価(自己評価)のプロセスで得られた気づき
- ・利用者調査、職員の自己評価及び評価機関による評価の結果から得られた気づき
- ・改善に向けた取り組みとその成果、など

■改善の取り組みとその成果③～アクティブ・ラーニングの実践による 学びの文化の定着

当法人は、福祉職場として、特別な配慮を要する職員も積極的に採用する中で、“成果”よりも職員一人ひとりにとっての“がんばり度合い”を重視する人事施策を基本としています。昨年度よりキャリアパス制度の運用を開始し、法人の求める職員の能力像を明示したことで、職員の目指す方向性が明確になりました。

職員が学びに対する意欲を高めているのは、アクティブ・ラーニング（能動的な学び）の考え方を基本に据えていることが大きいと推察されます。それぞれの職員が自分の学習したことを周りに伝え、教えることで、より一層学びを深めるプロセスを重視しており、その相互作用を通じて、継続的な学びと自己変革に価値を置く“学びの文化”が定着してきていると言えます。